

*題名中に書名が出現する場合は、引用符「」で囲みイタリック体を使用しない。

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り五印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で一二枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

第三巻第四号より「医史学と私」を掲載しているが、本学会に長く貢献されている先生方の文を拝読すると、医史学の中も広がり、量も多くなったと思う。先輩たちの多くが、富士川游著『日本医学史』を座右に置いて、本業のかたわらコツコツと研究されてこられた。先人たちの努力により、今は医史学関係の著作も多くなり、医史学に関心を持つ人たちが増えつつある。本学会も会員が年々増加し、論文なども増えてきた。医史学もかなり普及してきた、とうれしくなる。それと同時に、学会の看板である学会誌を編集している編集委員会の責任の重さが増してくるのを感じる。

現在、学会誌の編集に時空出版株式会社の協力をお願いしている。印刷に係わる業務を依頼することが多い。著者校正の際、今号までは、著者から編集委員会へ返送されていたため、返送された著者校正ゲラは時空出版へ転送していた。これでは二重手間であり、印刷所へ持ち込む時間が遅くなる。その上、著者校正は大巾な変更など(あつては困るが)特別な事がない限り、編集委員がチェックする必要もない事がわかった。このような事情で次号からは著者校正の返送先は時空出版としたが、責任は依頼している編集委員会にあることはもちろんである。編集・印刷に係わる苦情や御意見は編集委員会へお寄せいただきたい。

(蔵方 宏昌)